

みみネット

-Index-

支援学級相談（教育相談）申し込み受付開始
Q&A 支援学級相談および通級指導教室
マンガ「ローワライ」の紹介
チャレンジ！発音指導㊷（ラ行音）

支援相談（教育相談）申し込み受付開始！

本校では、特別支援学級に在籍する児童・生徒についての「支援相談（教育相談）」を行っています。令和8年度の申し込み要項については、1月末に校園メール等を通じて各学校へお知らせしました。趣旨をご理解いただき、該当する児童・生徒および保護者にご案内いただきますようお願いいたします。希望調査書は、在籍校より逡送にてご返送ください。

2/20（金）
〆切

- 支援相談の対象は「大阪市内と守口市内の小学校・中学校で、特別支援学級に在籍する聴覚に障がいのある児童・生徒の相談を希望される学校」としていますが、令和8年度については、自校通級で聴覚に障がいのある児童・生徒の指導を行っている学校についても相談に応じることができます。希望される場合には、個別にご相談ください。
- 支援相談では、4月に支援相談（教育相談）の全体説明会を行います。説明会の詳細は、希望調査書を提出された各校へ送付します。
- 年度途中での希望者については、随時ご相談に応じます。
(ご希望に沿った時間帯での指導・相談にするためにも、お早めにお申し込みください。)

\問い合わせは、担当者までお願いします／

聴覚に障がいのある児童・生徒を
対象とした通級指導教室（通級に
よる指導）を設置しています！大阪府立中央聴覚支援学校
聴覚支援センター長
TEL 06-7712-1405（支援部直通）
06-6761-1419（学校代表）
FAX 06-6762-1800

尚、本校では「通級指導教室」を設置し、通常の学級に在籍する小学校児童・中学校生徒を対象に、きこえやことばに関する指導や相談も行っています。「通級指導教室」については、4月に各学校へメール等でご案内させていただきます。

<概要> 通級指導教室・支援相談

	通級指導教室 (児童・生徒への支援)	支援相談（教育相談） (学校園への支援)
対象	<ul style="list-style-type: none"> ○大阪市内と守口市内の小学校・中学校の<u>通常の学級</u>に在籍している児童・生徒 ○聴覚に障がいがあり、きこえ・ことば・発音などに関する指導や、学校生活において支援が必要な<u>児童・生徒</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○大阪市内と守口市内の小学校・中学校で、<u>特別支援学級</u>に在籍する聴覚に障がいのある児童・生徒の相談を希望される<u>学校</u> (自校通級で聴覚に障がいのある児童・生徒の指導を行っている学校についても相談に応じることができます)
時間	<ul style="list-style-type: none"> ○在籍校と調整して決定します。 ○原則は、次の時間帯での指導になりますが、希望に応じて午前中に学習することができます。 ＜指導時間帯＞ ①14:00～②15:00～③16:00～ (小中学生とも1回60分程度) 	<ul style="list-style-type: none"> ○相談時間は1時間程度を基本とし、本校での支援、在籍校での支援を行います。 ○回数・形態は調整して決定します。
相談・指導内容など	<ul style="list-style-type: none"> ○補聴機器の装用と聴覚学習、言語・コミュニケーション、発音・発語などの自立活動に関する学習を行います。 ○長期休暇などで、同じ聴覚に障がいのある本校児童・生徒および通級・支援相談児童・生徒との交流や学習会も行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○在籍校での、きこえに関する環境の調整や自立活動の授業を円滑にすすめるための、言語・コミュニケーション指導、きこえに関する学習などの相談・助言を行います。 ○特別支援学級担任や学級担任、対象児童・生徒を担当している先生方にも、教育相談内容の参観と懇談をしていただくことができます。 ○長期休暇などで、同じ聴覚に障がいのある本校児童・生徒および通級・支援相談児童・生徒との交流や学習会も行っています。

Q&A 支援相談および通級指導教室

Q 今年度、申し込みました。
来年度も希望しますが、手続きは必要ですか？



はい、必要です！

「支援相談」および「通級指導教室」を、今年度に引き続き、継続で希望される場合も申し込みが必要です。「通級指導教室」については、4月に送付する案内をご確認のうえ、お申し込みください。

Q 来年度、新中学1年生に申し込みを予定している生徒がいます。
小学校・中学校、どちらから申し込めばよいでしょうか？

新小学1年生、新中学1年生については、進学先（4月以降の在籍校）からの申し込みとなります。本人・保護者と相談のうえ、現在の在籍校と進学先の学校での情報共有をお願いします。

進学先の学校です！



Q 特別支援学級に在籍しています。
「通級指導教室」に通うことは可能ですか？



いいえ、「支援相談」の対象になります！

特別支援学級に在籍している場合は、「支援相談」の対象となります。本人・保護者と相談のうえ、「支援相談」にお申し込みください。

Q 発音が不明瞭です。本校の「支援相談」や「通級指導教室」の対象になりますか？

本校は、聴覚に障がいのある児童・生徒が対象です！

本校の「支援相談」および「通級指導教室」は、聴覚に障がいのある児童・生徒が対象となります。尚、府立支援学校では、障がい種別に応じた支援方法・教材教具等に関する助言などを行っています。本人の実態に合わせて、関係機関との連携を行ってください。



Q 自校で自校通級に在籍しています。支援を受けたいのですが、「通級指導教室」の対象でしょうか？



「支援相談」の対象になります！

在籍校の自校通級で指導されている場合、「支援相談」で相談に応じることができます。支援相談を通して、在籍校での自立活動を円滑にすすめるための、言語・コミュニケーション指導、きこえに関する学習などの相談・助言を行います。

Q APD（聴覚情報処理障がい）と診断されました。
「支援相談」や「通級指導教室」の対象になりますか？

本校は、聴覚に障がいのある児童・生徒が対象です！

本校の「支援相談」および「通級指導教室」は、聴覚に障がいのある児童・生徒が対象となります。大阪市の学校園の先生は、一度、インクルーシブ教育推進室にご相談いただき、必要に応じて本校支援センターにご連絡ください。関連機関と連携しながら対応していきます。



Q 聴覚障がいのある児童・生徒はいませんが、聴覚障がいについての理解授業をしてほしいです。



基本的に、聴覚に障がいのある児童・生徒が在籍している学校園が対象です。

本校の「支援相談」は、基本的に聴覚に障がいのある児童・生徒が在籍している学校園が対象です。ただし、理解授業の進め方等の相談に応じることは可能ですので、一度本校支援センターまでご連絡ください。

マンガ『ローワライ』のご紹介

<作品紹介>

『ローワライ』は、雪野朝哉さんが描く漫才マンガです。耳が聞こえず、話すことができない男子大学生が、きこえる友人と出会い、才能を発揮、笑いの道に進んでいくというストーリーです。

<制作秘話>

雪野さんは「漫画でしかできないことをやりたい」と考え、音のない世界でお笑いを描くアイデアに挑戦しました。

「聴覚障がい者を特別視せず、まず“人”として描きたかった」と語り、主人公たちの日常を自然に表現することにこだわったそうです。

漫才の構成やテンポにも工夫が凝らされています。限られたコマで自然な間を作るため、ネタのリズムや見開きページの熱量を徹底的に調整。さらに、手話表現は専門家監修でリアルさを追求しました。



<反響と今後>

SNSで20万いいねを獲得し、第92回ちばてつや賞 優秀新人賞を受賞。さらに、2026年1月からヤングマガジンで連載が始まっています。今後ますます注目される作品です。

チャレンジ！発音指導 ②①

ラ行音

聴覚障がいのある子どもたちにとって、ラ行音は習得が難しい音のひとつです。音の聞き取りが難しいだけでなく、舌の細かい動きとタイミングが求められるため、発音指導では特に丁寧な支援が必要です。

ラ行音の特徴

ラ行音は、舌先が一瞬だけ上の歯茎（硬口蓋の前方）に触れてはじかれることで生まれる「はじき音（弾音）」です。英語の「r」のように舌を震わせる音ではなく、舌先が軽く弾かれることで生じる音です。

舌の動き：舌先を上歯茎に一瞬だけ触れ、すぐに離す。
息の流れ：息は舌の動きに合わせて自然に前方へ流れる。
口の形：自然な口の開きで、特別なすぼめは不要。

この「一瞬だけ触れる」という動きが難しく、舌が歯茎に長く触れてしまうと「だ行」や「な行」に近い音になってしまうことがあります。

ラ行音の練習方法をいくつか紹介します。

1. 舌の動きを見える化する

鏡を使って、舌先がどこに触れているかを自分で確認できるようにすることや、口腔図を活用して、舌の動きの「タイミング」や「位置」を図で示すことで、視覚的に理解しやすくなります。

2. 近い音から誘導して練習する

「た」「な」など、舌先を使う音から誘導し、舌の動きを少しずつ調整して「ら」に近づけます。「た → ら」「な → ら」のように、似た動きの音から移行する練習が効果的だといわれています。

3. 段階的な音の練習

構音方法を理解したあとは、単音練習で「ら・り・る・れ・ろ」を一音ずつ練習します。また、だんだんと単語にしていき、「らっぱ」「あられ」「そら」など、音の位置によって構音しかたが微妙に変化するので、それぞれ段階的に練習を進めていきます。

また、手拍子などで、舌の「はじき」のタイミング、リズムをつかませる方法も有効です。

指導のポイント

ラ行音の指導では、舌の動きの繊細さとタイミングの感覚を育てることが鍵となります。きこえにくい子どもにとっては、音の違いを聞き分けるだけでなく、自分の口の動きを意識する力を育てることが、発音の安定につながります。

誤って「だ」や「な」に置き換わる場合は、舌が歯茎に長く触れている可能性があるため、「軽くはじく」感覚を繰り返し練習することも大切です。

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：金森、只腰、萩原
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31
TEL: 06-7712-1405（支援部直通）／ 06-6761-1419（学校代表）
FAX: 06-6762-1800